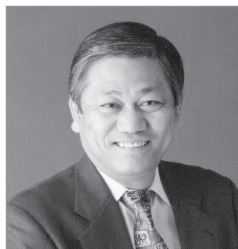


巻頭言

欧州「反ユダヤ」急増



ミッション・宣教の声 主幹 黒田 禎一郎



P2▶3

LCJE本部ニュースより

P4

メシアの家

網本 バフロ

P5

ピーター・ツカヒラ著書ご紹介

P6

アルコ・イリスミニストリーズ 早川 衛

P7

ハティクバ・ミニストリー 高瀬 真理

P8

3Pの続き

お知らせ

事務局より

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。」2テモテ4・2

ユダヤ人の歴史は、迫害の歴史といっても過言ではないでしょう。今、フランスや欧州各国は、第2次世界大戦以降最大とも言える反ユダヤ主義の高まりに直面しています。マクロン大統領は、2月中旬パリで開かれた仏ユダヤ人団体代表者会議（CRIF）の会合で、強い懸念を表明しました。

仏内務省よれば、ユダヤ人を対象にした犯罪や嫌がらせ行為は2018年、541件に上り、前年比74%増となりました。今年に入ってもこの傾向は止まらず、2月16日には、ユダヤ系の著名な哲学者がパリで侮辱的な言葉を浴びせられました。東部アルザス地方のユダヤ人墓地では、約100人の墓石にナチス・ドイツの「かぎ十字」の落書きが見つかりました。フランスには約60万人と言われる欧州最多のユダヤ人が住み、マクロン大統領は危機感を抱いています。2月19日には、パリ中心部で反ユダヤ主義に抗議する2万人規模の集会も開かれました。

反ユダヤの動きはフランスだけではなく。AFP通信によれば、ドイツでは2018年、反ユダヤ主義的な行為は計1千646件に上りました。そのうち、暴力を伴う行為は62件で、前年比の68%増となりました。オランダでは差別に関連した犯罪のうち「反ユダヤ主義」に起因する割合は、2017年は4割を超えました。ハンガリーのオルバン首相は、「反移民・難民」で知られていますが、ハンガリー出身のユダヤ人投資家ジョージ・ソロス氏が「資金を提供し、外国人の流入を手助けしている」と批判をし続けています。

こうした中、欧州連合（EU）は独・仏などの加盟国21カ国を対象の、約1万6400人のユダヤ人から聞き取り調査を実施しました。昨年12月に公表された調査結果によれば、約9割が「5年前に比べて反ユダヤ主義が拡大している」と回答しました。

仏の社会学者ミシェル・ビビオルカ氏は「極右勢力の台頭により、過激な思想や暴力がタブーではなくなっている」と語っています。5月には欧州議会選がありますが、こうした政治勢力の躍進が予想されます。自身もユダヤ人であるフランスの歴史家、マルク・クノベル氏は「数10年前は、自分がユダヤ人であるという理由で殺されるかもしれないと思わなかったが、今はあらゆる危険にさらされていると話しています。近年、反イスラエル感情が強い中東から難民が欧州へ流入したことも、迫害増加の一因となりました。

このように「反ユダヤ」の勢いが急進している中、神のマスタープランは確実に進んでいます。異邦人クリスチャン課題の一つは、全能の神を信じ「とりなしの祈り」を続けることです。反ユダヤ主義が増大する中、イエスをキリストと信じるユダヤ人がさらに起こされるように。

「今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。」1ヨハネ2・18



オーストラレーシア(南洋州)年次報告

LCJE 南洋州地区コーディネーター マーク・ポロンスキー 翻訳：駒井洋子

●セブレイト・メシア

この一年、多くのユダヤ人と福音を分かち合う素晴らしい機会が与えられました。メルボルンのユダヤ人コミュニティ the Eruv に住んでいると、個々のユダヤ人と前向きな関係を向上させる機会を持つという点において大きな利点があります。ルイズと私は、町の郊外からコミュニティの中心部に引っ越ししてから数人の人に出会いました。その多くは、カップルで、私たちは、メシアであるイエシュアへの信仰について重要な話しをすることができました。その数人はコミュニティでは著名な人で、彼らの率直さ、霊的飢え渴きの大きさに驚かされました。

一年のハイライトは、一連のオンラインポストで「イザヤ書解釈本」を提供するというフェイスブック伝道キャンペーンです。1ヶ月のキャンペーンで総数 189,801 人がアクセスをし、うち 2,584 人が無料本を求めました。そのうちの 115 人はユダヤ人でした。彼らについては、私たちの宣教師とボランティアがフォローアップを行いました。

第4回プラハでの Muchan 会議は、6カ国から 120 人の若者が参加し、意義深い繋がりが新しくされ作られ、大いに励まされ大成功となる会議となりました。私たちの 12 人のオーストラリア人若者のうち 4 人が短期宣教のためイスラエルに行きました。セブレイト・メシアはオフィスにベイト・ハ・マシア・メシアニック会衆の隣に引越して、家を借りました。以前のオフィス(家)は、キャウルフィールド・メシアニックセンター内にベイト・ハ・マシアを再建するための基金のために売られ、最終的にはそこにオフィスが置かれる予定です。私たちは、今年度の前半に、9ヶ月建設プロジェクトを開始できるよう希望しています。それは、南半球初のメシアニックセンター専用のものとなります。

ベイト・ハ・マシア・ミニストリーは会衆とともに一致と宣教において着実に成熟し成長しています。

私たちの全予算(ミッションの予算 10%ではなく)の 10%以上が宣教のために与えられます。これは、メルボルンだけではなく世界中のユダヤ人宣教に大きな結果をもたらすためにコングリゲーションを求めて惜しみなく予算が用いられているということです。

●ドム・ミッシー・メシアニック会衆

メルボルンのドム・ミッシー・メシアニック会衆は、ロシア人の子供、孫たちに接触しようと力を尽くし努力しています。リタは、チームをアルチョムとピロビジャンに連れてゆき、数箇所の教派教会で話しました。ハバロフスクでは、主要なシナゴグのユダヤ人指導者とその妻に会いました。ロシア極東でのメシアニック・シムハ会議は4年目を迎え、子供 70 人を含む 160 人参加の会を主催し

ました。大人 21 人がミクベ(洗礼)を受け、8人がイエシュアにその心を明け渡しました。セブレイト・メシアの善意溢れるミニストリー、テイックン・オーラムは、650 個のバスケットに食料を詰め、114 人のボランティアの協力でオーストラリア全土に配布しました。

理事 ローレンス・ヒルシュ

●CMJ ANZ

2017 年、CMJ ANZ はメルボルンキャウルフィールドのオークレーチャーチでケルビン・クロムビーの協力のもと、セミナーを開催し、東部諸州に活動を広げました。セミナーは、「イスラエルとイエスと契約」と題して行われました。この会衆のリーダーの一人であるヴァレリー・トリガーによると、セミナー開催地は、開かれるにもっともふさわしい所だったそうです。というのは、この教会の立っている土地は 19 世紀にウイリアム・ウィルバーフォースの親戚が捧げた土地だったからです。



10 月に、20 名の人々がイスラエルの「スコットをイエスと共に」ツアーに参加しました。このうち 7 人は、以前に私たちとショーレッシュツアーに参加した人たちで、また 4 人はアメリカからの人たちでした。サポーターの献金のおかげで、私たちは、クライスト・チャーチの屋上の展望バルコニーに掲げる記念銘板を作るための着手金を捧げることができました。そこは 1917 年にあの有名な写真が撮られたところのすぐ近くです。このアーティファクトはユダヤ人の故国回復のシンボルとして、ライトホース騎兵隊が勝ち取った勝利とクライスト・チャーチの関連を理解させることでしょう。

これはまた、ベエルシェバの市長に、私たちが、2003 年 10 月 31 日に「ベエルシェバの戦い」を記念する博物館を寄贈したことを思い出させることでしょう。このプロジェクトは、今年アンザック博物館の開館によって実現しました。この博物館は、主にオーストラリア・ユダヤ国際基金、ベエルシェバ市、連邦戦争墓地委員会、ライトホース協会そして第一次世界大戦遺産協会の基金によるものです。

今後の展望として、聖書は神の言葉であるという信仰をなお持っている英国教会の主教が、7月上旬の GAFCON フォーラムに参加するためエルサレムに来る予定です。私たちの主事の一人であるキャノン・ジョン・シモンズは、私たちがそこに出席することを望んでいます。もし、財政的に彼を援助することができれば、素晴らしいことです。

なお、11月26日から28日まで、そこで2年に一度行われるCMJ世界国際会議があります。ニュージーランドの私たちの代表リンダ・クックは地域の主事のケビン・マックイルドウィーと共に参加したいと望んでいます。彼らが出席できる否かは、私たちの寄贈者の方々がCMJ ANZの働きに対して気前良く捧げてくださるかに拠ります。もし豊かに与えられるならば、私たちは南イン

ドのスティーブ・インバナサンからの招待を受けることができ、そこで「ヘブルのルーツ」についての講義をすることができます。主が主の民を祝福するあなた方を祝福して下さるように(創世記12:3)。

国際主事 マーティン・ウエザーストン

<https://www.cmj-israel.org/>

LCJE 韓国 年次報告

韓国エリア・コーディネーター ジョン・ジェイコブ・リー 翻訳：及川りつ子



●概要

2017年、LCJEメンバーの間では多くの出来事がありました。LCJE韓国支部は2016年に発足したので、私たちの主な目標の一つは、韓国の教会にLCJE韓国支部を紹介することでした。実際、多くの教会や神学校が既にローザンヌ運動に関心を持っており、肯定的な態度なのです。しかしながら、LCJEについては知られていません。それで、私たちは主流派の教会にLCJEの名前で訪れ、我々が何者であるかを更に説明しています。

第二に、LCJEの国際共同体から一歩抜け出し、共働する方法を模索し始めました。私の見るところ、以前は、韓国のユダヤ人宣教の働きは孤立し、自分たちだけで何かしようとしていました。しかしながら、今は我々は他のアジア諸国、イスラエル、その他世界中のパートナーたちといかに共働するかを学びました。

1. LCJE 韓国の諸集会

我々LCJE韓国支部のメンバーは少なくとも月一回は会うようにし、毎週サラン教会で祈禱会を行いました。これらの集会はLCJEメンバー限定ではありませんでしたが、私たちはLCJEからの祈禱課題とニュースを分かち合いました。もちろん、LCJE韓国支部はLCJE韓国支部の独自の事務所を探していますし、2018年にLCJE韓国支部の定例集会を行いたいと希望しています。

2. 韓国におけるローザンヌ運動とのネットワーク活動



LCJE韓国支部代表のダニエル・ソン・ボム・ブーが、ローザンヌ運動韓国支部の全国委員会に参加しました。この会議で、ブーはローザンヌ運動CEOのマイケル・オー

博士、ローザンヌ運動韓国支部議長のジェイフン・リー、他の影響力のあるリーダー達と会い、LCJE韓国支部のビジョンと最新のニュースを分かち合いました。

第二に私が2016年にローザンヌ・キャンパス・キャン

プとYLG韓国に参加した関係で、トーマス・ノーサム・パクがYLG韓国(トゥピヤ・ザレツキー博士にトーチ・トリニティ・グラデュエート大学(TTGU)と2016年のYLGインドネシアでドンジン・キムと一緒に会ったヘジン・パク博士がリーダー)のユダヤ人伝道問題ネットワークの役割を担うことになりました。この会議において、LCJEニュースがLCJE韓国支部を紹介する良いツールとして用いられました。

3. LCJE 日本支部との協力

2017年1月に石井田直二氏が韓国を訪れ、LCJE日本支部のための祈りを要請され、LCJE東アジア・カンファレンスの共催を提案されました。それを受けてソン・ボム・ブーが2017年2月に日本を訪れ、ジョン・ジェイコブ・リーが2017年3月にLCJE日本支部を訪問、LCJE日本支部の祈禱会でLCJE韓国支部のビジョンを分かち合いました。これは我々とLCJE日本支部との共働の始まりにすぎないと私は信じています。

4. LCJE アジア地域カンファレンス

ピュン・キー・コン、ヨンデ・キム、ダニエル・ソン・ボム・ブー、ジョン・ジェイコブ・リーが、和歌山でのLCJEアジア・カンファレンスと大阪・東京での公開フォーラムの全日程に参加しました。トーマス・ノーサム・パクとCWIコーディネーターのウー・ヤン・カンが大阪の公開フォーラムに参加しました。東京の公開フォーラムでは、ジン・サップ・キム博士が韓国における神学教育について講演しました。

これらの集会で、ダニエル・ソン・ボム・ブーとジョン・ジェイコブ・リーがLCJE韓国支部からの挨拶を述べました。ジョン・ジェイコブ・リーがLCJE韓国支部の活動を説明し、ピュン・キー・コンが2018年2月3日から10日に行われるイスラエルのための韓国文化講演「アリランⅡ」を紹介しました。これはユダヤ人伝道の分野での国際協力として、LCJE韓国支部にとって記念碑的イベントとなりました。クリステン・デソーザ氏とロビン・ブルッケンスタイン氏が訪韓され、ソウルで再会を果たしました。

..... 8Pへ続く▶

大衝撃な事実と、イスラエルへの想い

メシアの家 網本 バフロ



いつも主が私たちのことを見守って下さり、私たちが歩むべき道を示して下さいに感謝します。また、この LCJE のニュースレターを読んでお祈りしてくだ

さっている方々に感謝いたします。

前回、イスラエルでの初めての伝道について前向きに述べさせていただいたが、今回はまず、重大なことを言っておかなければならない。前回も話したように、イスラエルへ行く前にメシニックCongregationsのリーダーと何度かビデオチャットで情報交換をしたり、伝道の目的や方法などについて話し合ったりさせていただいた。(彼はウクライナからイスラエルに移住していた) イスラエルに行っても、実際にそのリーダーと会い、彼らの礼拝に参加したのだが、それまでに思い描いていたのとは違い、イスラエル在住のウクライナ人が中心になっていた。そのCongregationで使われる言語もイスラエル手話ではなくロシア手話(ロシア、ウクライナ、モルドバ等による)だった。七つの祭りのひとつであるスコットパーティーを共に祝い、聖書の言葉について語り合ったのだが、どうしても違和感が頭を離れなかった。

また、Congregationの中で講演を依頼された時、モルドバ人の妻を持つメシニックジューがそこにいたため、私はイスラエルを愛する神の視点から、ろう通訳(イスラエル手話→ロシア手話)を用意し、イスラエル手話で話した。主が言われた言葉「永遠の愛を持って、わたしはあなた(イスラエル)を愛した。」(エレミヤ 31:13)を胸に。すると、彼が大変喜んで下さった。その時、そのCongregation内でのロシア手話に対する本音を聞かされた。イスラエルにはロシア語を話せるイスラエル人聴者が大勢いるが、ろう者は全く違う。ロシア手話ができないイスラエル人がほとんどなため、ロシア手話で進行するCongregationへ行くのに抵抗があると知った。それを聞き、「エルサレムを見て泣かれた」(ルカ 19:41) イエシュアによって、イスラエル人を愛する主の思いが私に伝わってきて、私もエルサレムのことを想った。

帰国してからも聖書を学びながら祈り、兄弟たちと話し合ったりしたのだが、手話コミュニティとしての、イスラエル人のためのCongregationはまだ存在しないという結論に至った。イスラエル在住の色々な国のキリスト信者たちにも礼拝のための場所が必要であると理解できるが、イスラエル人のためのCongregationがあると期待を膨らませていた分、とても残念でならなかった。イスラエル人のための、イスラエル手話によるCongregation。それが存在しないのだ。この事実を私たちは重くとらえるべきである。

イスラエルのろう者(Deaf=ろう者のアイデンティティーを持つ者)は約1万5千人。手話コミュニティにいる

イスラエル人ろう者が使う言語はイスラエル手話、アル＝サイード・ペドウィン手話、アルジェリア系イスラエル手話、カフル・カーシム手話である。ひとつの国に、全く異なる手話がいくつか存在しているのだ。また、イスラエル以外の手話が理解できるイスラエル人がほとんどいないため、それぞれの手話ごとに分かれたグループがあるのも無理はない。なぜ、イスラエル以外の国のろう者が沢山イスラエルに住んでいるのかというと、仕事のために来ているという人が多いそうだ。私としては、イスラエルに移住するのであれば、「郷に入っては郷に従え」ということわざがあるようにイスラエル手話を覚えるべきだと思う。実際、アメリカで生まれ育ち、イスラエルに移住、帰化したイスラエルで唯一のろう者ラビは、イスラエルで自分の母語である ASL (アメリカ手話) を使わず、イスラエル手話を覚え、イスラエル人のための礼拝場所を作った。自分の母語である ASL での礼拝場所はひとつも作っていない。宗教は違うが、その姿勢は素晴らしいと思う。

最初の話に戻るが、イスラエル手話によるイスラエル人のためのCongregationの場所が必要であることを皆さまに知っていただきたい。聴者には、イスラエル人のためのCongregationが存在しているが、ろう者にはそれが無いのである。神がイスラエル人を愛しているように、私たちもイスラエルのことを思い、一刻も早く、イスラエル人ろう者がイスラエル手話で聖書を学べる場所が作られることを私たちは祈っている。私たち団体メシアの家に出来ることが限られてしまうので、他の方々の協力が得られることを祈り続けている。それと同時に、私たちも出来ることから行動していきたい。



私たちメシアの家は、イスラエル人ろう者が聖書を学ぶ場が出来ることを祈りながら活動していますが、同意して下さる方は寄付金のご協力をお願いいたします。

●ご寄付の振込先【メシアの家】

<ゆうちょ銀行>

記号: 10080 番号: 87052131 メシアノイエ

※ 他銀行からお振込の方は店名、店番が必要になります。

店名: 00八(ゼロゼロハチ)

店番: 008

普通預金: 8705213

お振り込みいただいた後、ぜひ Email にてお知らせ下さい。
info@hom-japan.com

皆さまに主の祝福が注がれますようにお祈りしております。

ピーター・ツカヒラ著『神の津波 日本、そしてイスラエルへ』ご紹介

訳者：中村 芳子

日本の読者のために

2005 年の『神の津波』に大幅に加筆



この本は、2003 年に英語で刊行された『God's Tsunami』の 2016 年改訂版の翻訳だが、ピーターは日本版のために「愛する日本の読者へ」と「日本に対する神の計画」の 2 章を書き加えた。前回、頁数の関係で割愛した「ホロコースト」「信仰の回復とリバイバル」の 2 章も加え、完全版となっている。また、過去 13 年間にイスラエルや

世界で何が起こり、神がどう働かれたか、私たちはこれからどう備えて行くべきかが、大幅に加筆されている。

イスラエルのハイファ在住のピーター・ツカヒラ師は今日、世界の教会や団体から招かれて聖書のメッセージ、特にイスラエルと神の王国について教えており、偉大な教師として尊敬されている。

自らの経験に神の預言的な啓示を受けて

1998 年、ピーターは当時住んでいた東京から、ユダヤ人の妻と娘の 3 人でイスラエルに移住した。イエスを個人的な救い主と受け入れた時に「あなたたちは、やがてイスラエルへ行く」と神に語られていたのだ。すぐにハイファで、ユダヤ人とアラブ人と異邦人が一緒にイエシュアを礼拝するコングリゲーション（集会）をスタート。イスラエルで開拓と牧会をしながら、仕事とミニストリーでアジアやアメリカ、各国を訪れ続けた。そこで神の働きを自分の目で見、神の計画を受け取り、5 年後の 2003 年に『God's Tsunami』を書いた。開拓した集会「ケヒラット・ハカルメル」は、いまや世界中から人が訪れて、賛美し礼拝する場所となっている。彼が校長を務める「スクール・オブ・ミニストリー」は、年 2 回 12 日間の日程で開催されるが、世界中から生徒が集まって学び、教えを持ち帰っている。

著者が書いたのは、もちろん自然の津波についてではなく、神の霊の働きが津波のような力と勢いを持って東アジアに押し寄せている、という事実だ。この波は西へ進むにつれてさらにパワフルになり、中国からインド、中東の国々を浸し巻き込み、国々を大きく変革しながら進み、間もなくイスラエルに至る。ここが福音がスタートして伝わり始めた場所であり、終わりの時に、福音が到着して神の計画が完成される場所だ、と。

前著が発行された 2003 年当時、世界の多くの人は Tsunami という言葉を聞いたこともなかった。知ってい

る日本人も、見た経験した人はほとんどいなかった。いま、様子は全く変わっている。

2004 年 12 月にインドネシアのスマトラ島沖でマグニチュード 9.3 の大地震と津波が起こり、22 万人以上が犠牲となった。

東日本大震災後に被災地を訪れて祈る

2011 年 3 月に日本で起こったことについては、あらためて書かなくていいだろう。その後も地震と災害



は日本、アジア、世界で相次いで起こっている。

『神の津波 日本、そしてイスラエルへ』の「愛する日本の読者へ」によると、ピーターは東日本大震災の後、何人かのイスラエルのリーダーたちと共に被災地を訪れている。そこで、日本と日本人のために特別な祈りを捧げた。「日本に対する神の計画」の章では、アジアの霊的な覚醒からひとり、ぼつんと取り残されているように見える日本に「神がイスラエルに対して特別な計画を持っているように、日本に対しても特別な計画があり、日本のクリスチャンには特別な使命が与えられている」と熱く、パワフルなメッセージを語っている。

アメリカ生まれの日系三世であるピーターは、10 代を日本で過ごし、イスラエルに移住する前は日本の企業で働いた。祖父母の故郷である日本、肉の同胞である日本人に対しては特別な思いを抱いている。

日本のリバイバルに用いられるために

「神に与えられた使命を果たすコツは、サーフィンと同じだ。波をとらえるには、正しい場所で待ってタイミングをつかむ。ここで、預言的な知恵と識別力が必要だ。波がどこから来て、どこへ向かっているのかを見極める。波が来たらその正面に位置を決め、主を待ち望む。小さな波の後に、やがて巨大な波が来る。波に乗るのは自分の努力ですることではなく、神の力を受け取ることだ。正しい場所で待っていれば、波があなたをとらえる。そして、神の力と目的があなたとあなたの人生を、あなたの使命へと運ぶのだ」と著者は語っている。

特に、若い方々にこの本を勧めたい。

<お知らせ>.....

ピーター・ツカヒラ師は、2019 年 5 月に 3 年ぶりに来日し、東京、北海道、大阪、福岡、愛知など日本の各地でセミナーを持つ予定です。

詳細は決まり次第、連絡させていただきます。



ペルガモにある教会が表わす時代を覚え、イスラエルを執り成す

アルコ・イリス・ミニストリーズ代表 早川 衛

前回同様、ヨハネの黙示録に記された7つの教会が、教会の7つの型や教会の歴史をも表わすという認識に立ち、今回は、3番目のペルガモにある教会に焦点を当てる。同教会が表す時代を紀元313年から600年頃という前提で筆を進めたい。

紀元313年、ローマ皇帝リキニウスおよびコンスタンティヌス一世が出したミラノ勅令によりキリスト教が公認された。これは事実であるが、同勅令の内容は「キリスト者と全ての者らに何であれその望む宗教に従う自由な権限を与える」というものであった。それは、宗教的寛容の宣言であった、と言える。リキニウスの在位期間は、紀元308年から324年であり、コンスタンティヌス一世のそれは、306年から337年である。つまり、当時のローマ帝国は、複数の皇帝によって分割統治されていた。これは、ローマ帝国分裂の芽が、そのころには既に存在したことを意味する。つまり、その時代は混沌の時代であり、その中に宗教的寛容が投げ込まれたのである。

コンスタンティヌス一世は、複数の皇帝によって分割されていたローマ帝国を再統一した。彼を正教会、東方諸教会、東方典礼カトリック教会は聖人としている。しかし、そんな彼がユダヤ人に対して行ったことは、次のとおりである。315年、ユダヤ人の自治を制限する最初の勅令を出している。330年、ビザンチン（現在のイスタンブール）を東ローマ帝国の首都とし、イスラエルは、東ローマ帝国に統治された。（後に東ローマ帝国をビザンチン帝国と呼ぶようになったこともあり、イスラエルは、4世紀から7世紀にかけビザンチン帝国の統治下に置かれた、と表現されることがある。）339年、ユダヤ人とキリスト教徒との結婚およびユダヤ人がキリスト教徒の奴隷を持つことを禁止した。当時、農業を支える基盤であった奴隷所有の禁止により、ユダヤ人は農業から離れた。これはユダヤ人に経済的打撃を与えた。また、これがユダヤ人と土地を切り離す最初のきっかけとなり、中世においてユダヤ人の多くが都市部に住む布石となった、と言われる。

次にこの時代の神学者たちのユダヤ人に対する発言を見てみよう。コンスタンティノーブル総主教ヨアンネス・クリュソストモスは、ユダヤ教徒による不信心は狂気であり神の御子を十字架に懸け、聖霊の助けをはねつけたのなら、シナゴグは悪魔の住まいである、と述べている。また、彼の「ユダヤ人に対する説教」はナチス・ドイツが頻繁に引用した。アウグスティヌスは「イエスを救い主と

認めないユダヤ人の頑固さは圧政と屈辱を受けるに値するが抹殺すべきでない。しかし、その代わりに屈辱的貧困と社会的排斥を受けながら生き、聖書のメッセージを拒否する罰を受けるべき」と述べた。つまり、非信者がどのような運命をたどるかを証明するためにこそユダヤ人は存在すべきとしたのである。これらの発言が反ユダヤ主義の伝統を形成したことは明らかである。

興味深いことに、この時代、ユダヤ人は、二つのタルムードを編纂している。パレスチナタルムード／エルサレムタルムード（380年頃）とバビロニアタルムード（499年頃）である。タルムードとは、口伝律法を収めた文書群であるが、編纂当初、それは口伝律法を体系的に記述したミシュナに付け加えられた膨大な解説文のことだった。この解説部分は後にゲマラと呼ばれるようになり、やがてタルムードという言葉はミシュナとゲマラを併せた全体を指す言葉として使用されるようになった。口伝で語り継ぐべき口伝律法をあえて書物として編纂した理由は、迫害により、ユダヤ人がユダヤ教の存続に危機感を抱いたためであるともされる。もしそうであるなら、神がユダヤ人に持つ役割を理解しなかったキリスト者の反ユダヤ主義がタルムードを作らせたことになる。それは、ユダヤ人の心の目を覆い、イエスに立ち返る障害である。それを置いた責任は、異邦人にあることになる。

前述のとおり313年に発せられたミラノ勅令は、キリスト教だけではなく、全ての宗教を認めるものであったのだが、それはペルガモという町が持っていた宗教的寛容に通ずるものである。なぜなら、ペルガモには、カエサル、ゼウス、アテナ、ディオニソス、アスクレピオスなど、様々な偶像の神殿があったからだ。イエスはペルガモにある教会を誉めた。しかし同時に叱責している。その理由は、バラムの教えおよびニコライ派の教えがあったからだ。みことばの内容から、バラムの教えとは、性的な罪や偶像礼拝を容認する教えであったことが分かる。また、ニコライ派の教えとは、同2章6節からイエスも憎むものであることが分かる。それは、箴言8章13節にあるとおり、高ぶり、おごり、悪の道、ねじれごとを言う口である。前述のヨアンネス・クリュソストモスやアウグスティヌスの言葉は、まさにそれである。今、イエス・キリストの名まewithペルガモにある教会が表す時代の罪を悔い改めよう。誤った教えを破棄する執り成しの祈りをささげよう。それにより、ユダヤ人にかけられた覆いを取り除かれ、彼らがイエスに立ち返ることを主に期待しよう。



ヴァイオリンは主の栄光を喜び歌う

ハティクバ・ミニストリー代表 高瀬 真理

筆者は、幼少の頃よりヴァイオリンという楽器に親しんできたのだが、本当にユダヤ人ヴァイオリン奏者が多いと、感じていました。と、いう事でしばらくコ・ワーカーの皆様にユダヤ人ヴァイオリニストを紹介してゆきたいと、ペンを走らせております。

第一回目は、私が20代のころオーストリアのウイーンで音楽の勉強をさせていただいていた時、ザルツブルグ市近郊に住んでおられ、ホームパーティにお邪魔したことのある20世紀を代表するユダヤ人ヴァイオリニスト・イヴリー・ギトリスをご紹介します。イヴリーとはヘブライ語でヘブライを意味するのです。

ロシア系ユダヤ人の両親のもとにハイファに生まれ、パリ音楽院に留学しました。1968年にジョン・レノンの「ザ・ダーティー・マック」プロジェクトに参加し、異彩を放ちました。1971年にはブルーノ・マデルナ（イタリアの現代音楽の作曲家）より「イヴリーのための小品 Piece for Ivry」を献呈されました。1988年よりユネスコ親善大使に着任し、「平和教育と文化と寛容の支持者」となる旨を述べられました。

筆者はギトリスの大胆な解釈（通常では理解できない）そして思い切った表情づけ（ご自宅ではピエロのような恰好をしておられる）なかなかまねの出来るものではありません。特に小品の演奏は、アクの強さで支持する者、批判的なもの評価が真二つに分かれています。筆者は大好きです。

昔の批評家たちがギトリスの演奏は19世紀的と評されることが多いのですが、その批評の意味がよくわかりません。具体的にはテンポとリズムの大胆な解釈から始まり、独特なボーイングから生まれる個性的な音色、意図的に微妙な音程の変化（わざと音を外して弾く）ピアノと合奏するときには筆者もそのようにして聴感に訴えかける奏法を用いてステージ上で喜び歌います。そのように演奏するギトリスの姿が19世紀的とは、これいかに…です。たしかに常識という色眼鏡をかけて演奏を聴くなら、その演奏に賛否両論あることは確かだと思います。現代のヴァイオリニストのなかでも最も特色の強い演奏をすると認識されている事には納得できます。

ユダヤ人にヴァイオリニストが多いのはなぜかという疑問に、信仰をもって分かったことがありました。それはユダヤ式の教育は聖書や聖典（タルムード）が基になってされていることを初めて知ったからです。また長い迫害の歴史の中で、それに耐える力と知恵を蓄えることの重要性を知ることが出来るという恵みにあずかったからだとい

う事、まず主を賛美する喜びに楽器を通して学ぶ。

日本人として楽器を学ぶとき、自分を高めるため、一生懸命自分で頑張るのですが、ユダヤ人はそのスタート地点が「神」から始まるので、そこが大きく私とは違う点です。とくにタルムードでは、ユダヤ人の唯一の財産は知恵であることを教える話がいくつもあります。

〈参考 ミルトス社 ユダヤ式家庭教育〉

話が変わりますが、ギトリスは親日家としても知られています。2011年3月11日の東日本大震災にはたいへん心を痛めておられました。彼は日本人に向けて「メッセージ」を届けました。

「愛し、敬う誰かが悲劇に遭遇している時、何を語ればよいのだろうか？ 愛していると伝える？ その通り…。それこそ、私が第2の故郷と考える日本と、日本の皆さんに伝えたいことです。皆さんのことをいつも想っています。私に何かできることがあるなら教えてください。私は最善を尽くしたいと思います。今私に出来ること、それは皆さんにこう伝えること『私の心、そしてヴァイオリンはあなたのそばにいます』。もしもそれが皆さんの助けになるのなら、私はすぐにでも日本を訪れるでしょう！ 今日本で起こっていることは世界全体への警告であり、私は世界がここから何かを学ぶことを望んでいます。しかし今はなにより、被災者の人々を愛し、その勇気を称賛しながら、より良い日が来るようにと希望を抱き、祈るだけです。」と。

筆者は大変感動しました。当時、多くの演奏家が次々に来日公演を中止していることにも心を痛めておられたのです。自身が来日し演奏することで日本は安全だ！コンサートを行っても支障がないことを分かってもらおうと考え、自身の予定を変更し、チャリティ・コンサートを東京・名古屋でも開催してくださいました。

コンサート合間に、宮城県石巻市にある避難所の石巻市立女子高等学校を慰問し、体育館で約200人の被災者や生徒を前に、エルガー作曲の「愛の挨拶」や日本の唱歌「浜辺の歌」を演奏されました。

その後、石巻市立門脇中学校の音楽室を訪れ、吹奏楽部の生徒たちと交流、バッハの無伴奏パルティータを演奏すると、そのお返しに生徒たちは「ふるさと」を返礼演奏しました。

ギトリスはその演奏に感涙し、「君たちとは音楽でつながっている。音楽をずっと続けてほしい」とメッセージを送ったのです。心からの賛美は主の祝福満ち溢れた素晴らしい時であったと今思い返しても涙が出てきます。

現在も主の栄光を輝かせながら最高齢ヴァイオリニストとして祝福されています。シャローム

5. 2018 年における次の段階

LCJE 韓国支部は 2018 年には 3 歳のネットワークとなります。今や LCJE 韓国支部の定例集会を、我々自身の施設で始めるべき時です。LCJE 韓国支部の今後の発展をぜひお祈りくださるようお願いします。LCJE の活動が強化されたネットワークです。ジン・サップ・キム博士とイスラエル神学フォーラムが、イスラエル聖書大学とホーリーランド大学を交えて、2018 年 1 月 31 日にエルサレムのヘブライ大学において第五回イスラエル神学フォーラムが開催されました。そしてピュン・キー・コンがイスラエルで LCJE のリーダーたちの助言をいただき、アリランⅡでの彼の演目に招待しました。実際的には、我々は LCJE ニュースを韓国語に翻訳したいと切望しています。結果として、韓国の主流派教会が将来的に LCJE 韓国支部と共に立ち、ユダヤ人伝道のために働くようになればと願っています。



ジョン・ジェイコブ・リー
LCJE 韓国支部エリア・コーディネーター
lcjekorea@gmail.com

LCJE

LCJE日本支部事務局レター

LCJE は、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJE として支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願いいたします。

2019年度祈禱会予定

場 所	5月	6月	7月	会 場
大阪 (6:30より)	16日	13日	11日	北浜スクエア (VIP関西センター8F)
東京 (1:30より)	11日	8日	13日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈りにご参加される方へ】第二木曜日午後 6 時半開始です。5月は石堂女史をお招きし、特別集会を予定していますので第三週目にあります会場は VIP 関西センター8Fです。

【東京祈りにご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈りの会場は、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

LCJE日本支部2019年2月度会計

収入・献金			支出・現金		
科 目	金 額		科 目	金 額	
献 金	145,600		事 務 費	12,800	
大阪祈り会席上献金	10,000		NEWSレター製作費	50,120	
			郵 送 費	76,800	
			郵便振替手数料	3,200	
			通 信 費	5,500	
			賃 借 ・ 管 理 費	21,600	
			高 熱 費 ・ 共 益 費	9,400	
			交 通 旅 費	7,000	
			祈 り 会 経 費	14,000	
			L C J E 会 費	22,400	
合 計	155,600		合 計	222,820	
			差 引 残 高	-67,220	
前月よりの繰越	190,537		翌月への繰越	122,987	

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの声、そして証や、記事の御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。文字数は 2000 文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか、LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様お元気にお過ごしでしょうか。今月も興味深い内容のニュースレターをお手元へ届けられる幸いを主に感謝いたします。

お隣の韓国は LCJE 韓国支部の働きを主が力強く前進させてくださっています。是非良き働き人が益々主にあって起こされますように、また LCJE 日本支部とも東アジアでの祈りの「連携」を主が強めて下さり共に主の福音を届ける同労者として祝福されますようお祈りください。

巻頭言にも反ユダヤ主義の記事をお届けしています。この事から私たちは本当に心注いで主にある平和を祈らなければならないと思わされています。まだ主とお会いしていないユダヤ人には一日も早く主とお会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。是非大阪祈り会、東京祈り会へもご出席くださり、イスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人一人に主の祝福がありますように。シャローム
LCJE 日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝